事例報告

3）高知県安芸地区（2次医療圏）の取組みについて

高知県総務部職員厚生課
職員健康推進監
杉　原　由　紀

高知県安芸地区（２次医療圏）の取り組みについて

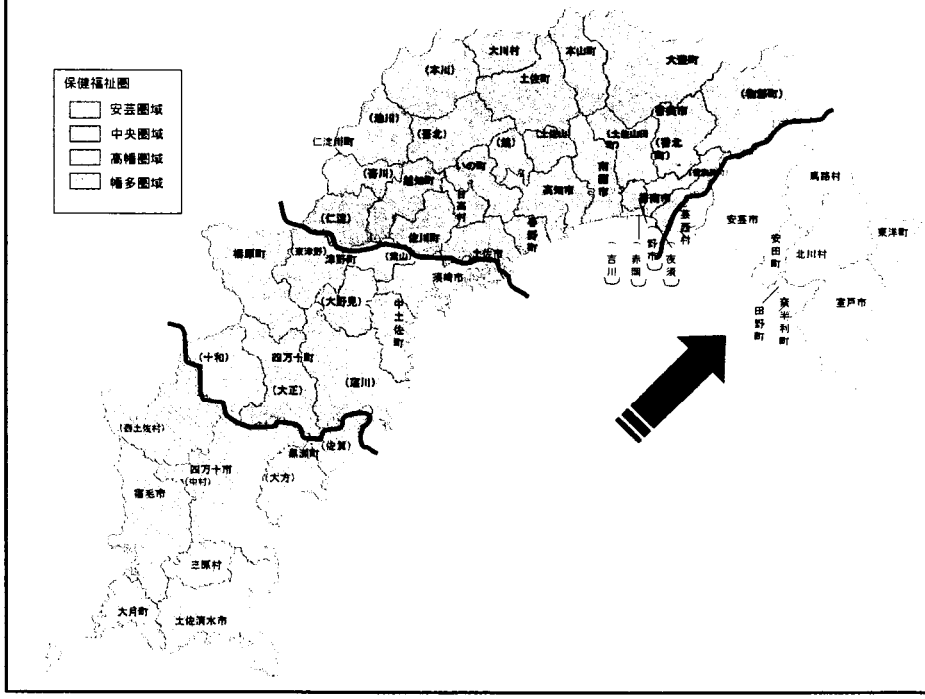
高知県総務部職員厚生課
杉原　由紀

安芸地区勤労者健康づくり推進協議会

- 安芸・室戸地域における勤労者の健康づくりを推進するため、その現状、問題点、対策等に関する必要な事項の検討を行うとともに、関係機関相互の連絡調整を図ることを目的に平成13年7月に設立。
- 協議会は、情報交換、協働事業の紹介、事業の報告、研修などを行う。
- 構成メンバー

平成18年度　安芸地区勤労者健康づくり推進協議会　委員名簿

	安芸労働基準監督署　署長
	安芸・香美地域産業保健センター　コーディネーター
	室戸市商工会事務局　局長
会長	安芸商工会議所　専務理事
	中芸地区商工支援センター　事務局長
	芸西商工会　経営指導員
	土佐あき農協 総務管理部　人事課長
	北川村森林組合　組合長
	安芸林業事務所　振興課長
	安芸福祉保健所　保健監（所長）
	室戸市保健介護課　課長
	安芸市健康福祉事務所　所長
	東洋町健康福祉課　課長
	奈半利町保健福祉課　課長
	田野町保健福祉課　課長
	安田町町民生活課　課長
	北川村住民課　課長
	馬路村健康福祉課　課長
	芸西村健康福祉課　課長



協議会の考え方

- 監督ではなく、協働的で継続的なサービス提供
  事業所の不十分な点を指導するというより、協働して継続的な改善を
- ニーズ調査の結果や事業所から出てきたデマンドに応じた事業展開
  業種別の格差と零細事業所の多さ
- パートナーシップとネットワーク
  勤労者は地域で生活し、働く者である
- 専門性の発揮　～職場の健康リスクを総合診断～
  環境診断（作業環境測定・人間工学チェック）と個別健康診断

→ 最終的な目標は、
職場毎に生涯を通じて健康で生活し、働くためには何が必要かを理解してもらい、そのスキルを習得してもらうこと

これまでの取り組み

- 農産物の集荷場で働く人々の健康づくり
  健康調査と作業環境診断、作業方法・態様の把握と体力測定
- 山で働く人々の健康づくり
  定期健康診断結果の分析、生活・健康アンケート調査、作業環境診断
  森林組合健康増進プランの作成と健康づくり対策
- 電気を作る職場で働く人々の健康づくり
  体力測定の実施とウオーキング指導
- 分煙のための環境診断サービス・健康教育
  環境診断結果から喫煙対策の提案、実施
- 健康まつりでのウオーキング指導
  健康状態・運動実施状況に関するアンケートの実施と個別指導

平成18年度の取り組み

- 安芸市健康まつりへの参加
  （メタボリックシンドロームに関する普及啓発）
- 全国に支社を持つグループ企業の小規模地方事業所における体力測定および健康教育
- 小規模建設業における安全教育
  （安全衛生マネージメントシステムの導入）
- 蜂アナフィラキシー対策への取り組み
  （環境保全型農業の推進と安全対策）

1．第8回　あき・元気フェスタ（安芸市健康まつり）への参加

内容：「ウェスト・サイズ物語」～ちょっと高め」が落とし穴!!　チョイワルおやじは今が勝負～」をキャッチフレーズにメタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）についての普及啓発を行った。

具体的な取り組み：

①パネルおよびポスターの展示

②腹囲を図るテープ（腹囲の正しい測定方法やメタボリックシンドロームについての資料を添付した85/90cmのテープを作成した）の配布

メタボリックシンドロームについての指導を受けたものについて、テープを配布した。（81名）

③保健師による健康指導

評価：

①メタボリックシンドロームについては関心が高く、よく話を聞いてもらえた。

②テープについても「家でも図ってみる」と持ち帰りの希望が多かった。

☆あき・元気フェスタには安芸市民約1000名が参加。小さな子ども連れから高齢者まで幅広い年齢層の参加があり、健康への関心度も高い。

協議会として参加したため、保健所職員のみでなく、協議会のメンバーもスタッフとして参加した。当日はさまざまな団体が参加しているため、他の団体との交流もはかることができた。

ただし、一番ターゲットとしたい働き盛り世代の参加はあまり多くなく、今後の課題。

2．全国に支社を持つグループ企業の小規模地方事業所における体力測定および健康教育

内容：

企業の健康作りの一環としての体力測定に専門的助言を行い、測定後にはその結果を活用して健康指導を行った。

具体的取り組み：

①体力測定

約1週間、保健所より体力測定用具を貸し出し（握力計および長座位体前屈計）、体力測定を実施した。

実施後、保健所にて個人の体力測定結果の評価を行った。

②健康教育

体力測定結果の考察とメタボリックシンドロームについて、保健所医師が講話を行った。その後保健師による健康相談を実施。

「体力測定の結果」

1) 対象者:
男性28名(平均年齢37歳)女性8名(平均年齢48歳)

2) 肥満に関すること
BMI(Body Mass Index):男性23.8 女性21.9
腹囲:男性 83.3cm 女性 69.7cm
男性85cm以上の者:
34歳以下20.0% 35歳以上58.3%

3) 体力測定結果に関すること
男性は35歳以上では、反復横跳び(敏捷性)、長座位体前屈(柔軟性)、閉眼片足立ち(バランス)の各項目で34歳以下と比較して有意に測定結果が低下していた。

評価

☆対象企業は全国に支社を持つグループ企業であるが、当該事務所は5～20人ほどの少人数事務所の集合体であり、産業医、産業保健スタッフはいない。

本社からの指示に従い、一般・特殊健診、過重労働対策等は一定行われているが、健診後の保健指導が徹底されているわけではない。

また、従業員は、現地採用者が少なく、全国規模で転勤する者が大部分であるため、市町村レベルでは地域住民という視点で継続的にフォローを行うのは困難であり、会社側の担当者も数年ごとに転勤するため、取り組みが蓄積されにくいようである。

3．小規模建設業における安全教育

内容：

建設業の現場監督者を対象に、労働衛生マネジメントシステムの導入を試みた。

具体的取り組み：

①職場の事故事例、ヒヤリハット事例についての整理を行い、どのような状況下での事故が多いかについて各自、自分の担当現場について考察を行う。

②労働衛生マネジメントシステムの考え方に基づき、事故の起こる頻度と重傷度を検討する。

③各自が具体的な安全計画の策定を行う。

評価：

- 座学ではなく、グループ内でのディスカッションを行いながら、自分たちで自分たちの作業現場についての検討を行ったため、すぐに実際の取り組みにつながった。

- 若く経験の浅い労働者に対して、年長者が具体的な事例を通して指導を行う場面が見られ、今後事業所のスタッフを中心に取り組みを行う際の、基礎となっていくと考えられる。

☆対象事業所は従業員数約20名。
地元村が国保診療所と連携し、メタボリックシンドロームについての取り組みをおこなってきているが、けがを中心に事故件数が多く、まずは安全対策にきちんと取り組もうとのことで、当該事業の実施となった。

☆事業主の理解もあり、今後は町内の他の建設業とも連携し取り組みを継続予定。

☆保健所としては、保健指導を切り口にするのが容易ではあるが、環境測定、安全教育等の切り口は事業所側のニーズが高いことから、取り組みをすすめやすい。

4. 蜂アナフィラキシー対策への取り組み

内容：

・マルハナバチ・ミツバチを利用しているハウス農家を対象に、蜂アナフィラキシー対策としてエピネフリン自己注射の普及啓発を試みた。

具体的取り組み：

・安芸農業振興センター、安芸地区農業協同組合と連携し、蜂アナフィラキシーについての正しい知識と情報を提供し、エピネフリン自己注射の広報を行うための講習を行った。また、安芸市内の農家全戸に配布される広報誌に蜂ささされ対策に関する原稿を作成した。

☆環境保全型農業を推進するにあたり、高知県内のハウス農家はマルハナバチ・ミツバチを利用している（特に安芸地域はナスの生産が盛んで積極的にハチの導入を行っている）が、高知県農業技術課の調査によるとマルハナバチ・ミツバチ導入農家の78%に刺されの経験があり、15%は10回以上刺されていた。

また、約12%に全身的なアナフィラキシー症状が疑われる者がいた。

早急に安全対策が必要であったため、取り組みを行ったが、今後環境保全型農業を推進するために安全対策は必須であり、専門的支援が必要であると考えられる。

まとめ

・ 今後の取り組みについて